

Affiliated with the International Association
THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO HACHIOJI
Chartered October 30, 1994



〒 192-0906
東京都 八王子市北野町 575-22
並木 真 TEL : 090-4314-3044
Fax: 042-649-5276
E-mail : m.namiki1020@heartbeat@gmail.com

2024年2月

The Service Club of The YMCA

第344号

東京八王子ワイズメンズクラブ

会長 並木 真
副会長 久保田 貞視
書記 小口 多津子
会計 長谷川あや子
直前会長 花輪 宗命
担当主事 菅野 牧夫
ブリテン 山本 英次 茂木 稔
大久保 重子

国際会長 ウルリック・ラウリドセン (Denmark) 主題「輝かそう、あなたの光を」
スローガン「良いコミュニケーションは、全ての協力関係の基礎である」
アジア太平洋地域会長 利根川 恵子 (川越) 主題「変革のための光となろう」
スローガン「親睦を通して、輝き、力を得よう」
東日本区理事 山田 公平 (宇都宮) 主題：「未来のために今、学びと気づきを！
未来のために、自信を育み、真の喜びに出会う！」
スローガン「ユースアクションをワイズの主要な活動の一つに」
あずさ部部长 森本 俊子 (長野) 主題「よい結果をもたらす心の安定と考える力を」
～面白いと思えることを再発見しよう～
八王子クラブ会長 並木 真 主題「リアルな活動とつながりを！出来ることをやる！」

2024.2月例会プログラム

【TOF(断食のとき)例会】

(担当:A班 菅野、佐藤、長谷川、稲葉、小口)

日時:2月24日(土曜日) 18:00~20:00

会場:八王子市北野事務所2階大会議室

＜プログラム＞

受付:菅野メン、小口メン 司会:佐藤メン
*開会点鐘 会長:並木 真
*ワイズソング 一同
*ワイズの信条 一同
*ゲスト・ビジター紹介 会長:並木 真
*TOF 例会主旨説明 小口メン
*聖書朗読と感謝の祈り 長谷川メン
*卓話「山中湖センター100周年～夢と希望を抱いて」 お話: 鳩山徹郎氏
(公益財団法人 東京YMCA ウェルネス事業部
野外教育マネージメントディレクター 野外教育・
山中湖センター・野尻キャンプ)
*報告事項・連絡事項 会長・YMCA・各委員
*スマイル(能登半島地震災害支援) 稲葉メン
*チャリティーコンサートのこと 花輪実行委員長
*ハッピーバースデー (久保田佐和子) 会長
*閉会点鐘 会長:並木 真

巻頭言

第22回チャリティーコンサートを開催します

実行委員長 花輪宗命

2024年1月号ブリテンの最終ページでもご案内した通り、来(3)月9日(土)午後2時から、東京八王子ワイズメンズクラブの看板CS(地域奉仕)事業であるチャリティーコンサートが、八王子市北野市民センター8階ホールで開催されます。

八王子出身の人気ソプラノ歌手:奈良原繭里さんが、笹川哲史さんが奏でるバイオリンと中山博之さんが奏

でるピアノの調べと共に、世界平和への祈りを込めて、皆様には懐かしい歌曲をお届けするコンサートです。



20回以上の伝統を誇るチャリティーコンサートですが、コロナ禍のあおりを受けて、このところ毎年開催中止に追い込まれてきた結果、今回は、実に5年ぶりのコンサートになります。

今月の聖句(2024年2月)

その時、弟子たちがイエスのところに来て、「天の国では一体誰がいちばん偉いのでしょうか」と言った。そこで、イエスは一人の子どもを呼び寄せ、彼らの真ん中に立たせて、言われた。「よく言うておく。心を入れ替えて子どものようにならなければ、決して天の国に入ることはできない。だから、この子どものように、自分を低くする者が、天の国でいちばん偉いのだ。また、私の名のためにこのような子どもの一人を受け入れる者は私を受け入れるのである。」

(新約聖書・マタイによる福音書 18:1~5)

この間、世界の各地では、あの忌まわしいパンデミックに輪をかけるように、目を覆いたくなるような大規模自然災害や地域紛争の災禍が連続し、罪のない多くの人々が、いわれのない悲運に苛まれています。それは正に旧約聖書の「コヘトの言葉」に描かれているような惨状のようです。

しかし、私たちは、その災禍を前に、怯んだり、うなだれるばかりにしたりしてはなりません。私たちワイズメンは、その「コヘトの言葉」にあるように、私たちが受ける分をいくつかに分け、私たち共同体の仲間と共有することで、お互いに助け合い支えあってこの災禍を乗り越えていきたいと思えます。今度のチャリティコンサートは、そのためのアクションの一環です。

皆さまには、私たちのチャリティコンサートの趣旨に寛大なご理解を賜り、お仲間にも声をかけてご参加いただきたく、よろしく願いいたします。

TOF (断食のとき)



TOF (Time of Fast タイム・オブ・ファスト)は「断食のとき」のことで、ワイズの国際事業の中心的活動の一つで、1972年に始まりました。クラブ例会などでの食事を抜いたり、質素な

ものにしたりにして、その分の費用を国際協会に献金するものです。献金は国際協会が世界中のYMCA、ワイズメンズクラブから募集して選定する発

展途上国を主な対象とする地域支援プロジェクトに用いられています。

2023/24年度の新たなTOFプロジェクトは第53回国際議会(2023年7月、ケニア共和国ナイロビ)で選定されました。カメルーン、ナイジェリア(2件)、ネパール、ミャンマー、インド(3件)、ペルー、コロンビアでの計10件で、総額94,050スイスフラン(約1,600万円)の給付が承認されています。これらの概要は添付の一覧表をご参照ください。

また、TOFやこれまで承認されたTOFプロジェクトについて詳しいことをご存知になりたい方は国際協会のホームページ(下記)をご参照ください。

<https://www.ysmen.org/our-work/international-support/time-of-fast/>

東日本区のTOF献金目標は、会員一人当たり1,300円以上です。各クラブから各部への送金期限は2月15日です。私たちは世界のどこかで誰かと繋がっています。積極的に献金に参加いたしましょう。

ワイズメンズクラブ国際協会東日本区

2023~2024 年度

第二回あずさ部桑都評議会

第2回あずさ部桑都評議会を終えて

長谷川あや子

桑都という美しい冠の評議会が2月10日(土)高尾の森わくわくビレッジにて開催されました。当日は朝から青空が広がり暖かい日和となりました。ホストの八王子クラブは10時30分に集合し、机の配置や「あずさ部評議会」の横断幕の貼り付けなど皆で協力しながら準備に当たりました。私は部書記としてワークブックの作成、出席者の確認、プログラムのタイムスケジュールなど、することは山ほどあり準備に追われて当日を迎えましたが、クラブが一丸となって準備して下さり嬉しかったです。受付は小口さん、大久保さん、稲葉さん、久保田メネットの連携プレーでした。

能登半島地震の犠牲者と小山憲彦さん(東京サンライズ)を悼んで黙祷を捧げ、開会式が始まりました。ワイズソングのハーモニカ伴奏はもちろん並木信一さんです。並木真会長は八王子のシルクのネクタイを着用、桑都にふさわしい装いで清々しく歓迎のご挨拶をなさいました。



評議会の冒頭、森本部長が「こうして皆さんとお会い出来て本当に嬉しい」と飾らぬ言葉で話しかけられ、私も緊張が溶けていくようでした。

議案審議では2024-2025年度あずさ部役員承認の件、2023-2024年度あずさ部CS・Yサ事業助成の件、あずさ部次々期部長辞退の件が審議され、いずれも承認されました。

2023-2024年度会計中間報告、部長、事業主査、クラブ会長の活動報告があり、コロナ禍を乗り越えて活発に活動されている様子が伺えました。八王子クラブ新入会員の稲葉恵子さんも紹介されました。

グループ討議では1~7グループに分かれて「あずさ部部長選出についての話し合い」をしました。

1997年にあずさ部が発足した時から部長はクラブチャーター順に担うことに決まりましたが、今年度で3周が

終わり次年度は第4周に入ります。これから先、4周、5周と順番に回していければよいのですが昨今のクラブ事情から難しい面もあります。討議では選出方法について、又、どのようにしたらどのクラブも部長を担うことが出来るかなどが話し合われました。真剣に、そして楽しく話し合うことが出来るのがあずさ部の魅力だと思います。どのグループも輪番制がよいということは一致していました。その上で、簡素化できることは簡素化することも提案されました。一日で結論が出ることではないのでこれからも話し合っていきたいと思ひます。監事講評にあったように「部をいかに元気に存続させていくか、熱き思いをいかに継続させていくか」が問題でしょう。



あずさ部桑都評議会参加者集合

森本あずさ部部長挨拶

やはり、リアルな会はいいですね。本当にこんないいお天気の中、高尾ワクワクビレッジに集まれたということが大変嬉しく思ひます。

新年早々、思いがけないことばかり起こって、気持ちが萎えたりした方も。ここに居る皆さん、本当にそうだと



思ひますけれども、こうやって元気で集まれて本当に良かったと思ひます。

今お話がありましたように、八王子が桑都と言われるようになったことがそんなに古くからだったとは私は実は知りませんでした。頭で桑都評議会を開会いたしますと言ったときは、そこまですごい謂われがあるということを知りませんでした。

司会の久保田さんや会長の並木真さんからのご案内でやっと理解が出来ました。

因みに、「松本」は、「ガク」と言つて「岳」、「楽」、「学」をあてております。「長野市」は、「仏」とか「縁」などの漢

字を使つたりします。

これからは、八王子のことを話すときにこういうことを合せてお話して八王子に行って来たのよと言いたいと思ひます。

それだけでなく、Y'sMen'sClubの評議会も部大会もいろんな事柄が各地へ出かけて、そして懐かしいねって、ニコニコしながらいろんな人と挨拶できるそういう会だということが本当に嬉しいと思ひます。

そして今日嬉しかったことは、松本クラブの若いリーダー古畑さんと当時ニューヨークに滞在中だったYMCAの菅野さんがニューヨークで知り合つていたということを知つて、今並木さんからのご挨拶にもありましたけど、遙か昔学生時代に古畑さんユースリーダーとしてニューヨークに行ったときに菅野さんとお会いしたということがここで分かつたわけですね。これからはきっとそういう出会いが続くと思ひます。

若いリーダーがこのY'sMen'sClubにも生まれ始めています。私たち自身はもう歳だからとか言つたり、次の係りをするのにも無理だとか、それを理由に切ない悲しいと言つたりしますが、そうではなくて、どういふ形でもこのY'sMen'sClubが続いていって、しかも楽しい会として、またリアルな会が開かれるだろうという予感があります。

本当に嬉しいなと思つてこのお話をいたしました。皆さん、今日は元気で出てきてくださつてありがとうございます。

並木真・クラブ会長挨拶

『八王子が桑都と呼ばれるようになった由縁は、平安時代の僧侶西行法師が読んだという和歌「浅川を渡れば富士の雪白く、桑の都に青嵐吹く」にあります。この歌は、江戸時代後期の随筆に記録されており、この頃栄えてきた八王子宿の織物市のにぎわいを背景に桑



都と言われ、並ばされてきました。日本で桑都と称されるのは八王子だけです。』と八王子市のホームページにありました。2020年に

日本遺産に高尾山を含めて八王子が認定されて、それから桑都で盛り上がりつつある八王子でございます。私は今日、八王子織物のネクタイをしてきました。シャツは、2月のピンクシャツデーに合わせてピンクのシャツ

を着て、この八王子織物、父からプレゼントされたものですけれども、色合いが濃く、合わせるの大丈夫かなと思いましたがしてみました。イチヨウの葉もデザインされていて、非常に八王子らしいなと思い、今日初めて下ろしてきてきました。私の小学校の低学年の頃には、まだうちの近くにクワの畑がありました。今はほとんど見られません。

先ほど父の祈りもありましたけれども、能登半島地震あと、ロシアのウクライナへの侵攻、またガザでの侵攻、世界には様々な私たちが寄り添うべき事案がたくさんあります。非常に大変な時代ではないかなと思いますが、昨年とてもうれしいことがありました。私は初めて東京YMCAで昨年9月23日に行われました、国際チャリティーランにリアル参加をし、駅伝を走ってきました。5名で走りまわりましたが、中央大学のひつじくもの藤原君という子も参加してくれまして一緒に走りました。

走った後に藤原君が、「ワイズメンズクラブっていいですね。僕も後になるけどワイズに入りたいです。」と言ってくれたんです。これはよかったです。「何時入るの?」と聞いたら、「社会に出てから、50歳くらいになったからですかね。」って。彼今大学2年生なんです。うーんと思いましたけれども、今年東京サンライズさんが35周年、3月23日に記念例会が行われ、我が八王子クラブも今年30周年ということで、10月26日に記念の例会を予定しております。先輩の方々が積み重ねてきたこの年々だと思います。さて、これから30年、藤原君が入る頃には私たちのワイズメンズクラブはどうなっているでしょうか。これが私たちのこれからの課題ではないかなと思います。

未来は今の積み重ねでございます。今日は主題はありますけれども、皆さんといろいろなことを話し合えたいなと思っております。良い会になると確信しております。

どうぞ皆様、本日は半日ではございますが、どうぞよろしくお願い致します。どうも、ありがとうございます。

八王子クラブの紹介

会長 並木 真

東京八王子クラブの状況をご報告させていただきます。会員の異動ですけれども、今月7月に小口さんの紹介で稲葉恵子さんがご入会して下さいました。7月の例会は、非常に嬉しい会でした。ただそれで13名になりましたけれども、長年活動して下さって

きた茂木稔さんが体調のご都合で、1月から休会ということになりました、現在は元の12名というところで活動しております。

毎月の例会ですけれども、卓話は、いろんな方面からお話がお聞きできて、非常に勉強になる会を重ねております。クリスマスの例会でも非常に楽しい例会でした。

アピールしたいことは、昨年のAYC2023ネパール大会ではひつじくもからメンバー5名参加をさせていただいたことです。彼らもいい経験をしてきたのではと思っています。



またこれからになりますけれども、今日いろんなところにポスターを貼らせていただいております。

チャリティーコンサートを3月9日に5年ぶりに行います。第22回ということ。JCBL地雷廃絶日本キャンペーン。これは以前から支援をしておりましたが、今年は新たにいまだに終わらないロシアのウクライナ侵攻による、ウクライナから日本への避難者支援ということを掲げまして、この二本建てでコンサートを行います。ぜひお時間のある方はお越し下さいたいとお聞き頂ければと思います。ご出演下さるソプラノ歌手の奈良原さんは八王子市出身の方です。

チャリティーコンサートは趣旨をご理解いただきまして出演をさせていただきます。ということで、ぜひ音楽を楽しんで頂き、チャリティーにご協力頂くということで、皆様の多くのご来場を待ちしています。どうぞよろしくお願い致します。

またこれからの課題ですけれども、やはり皆様のクラブと同じように、会員増強ということが一つ課題になっております。その課題を解決するためには私が思っているのは地域へのCS活動ということを考えておりますが、なかなか具体的には今はありません。しかし、定期的な継続的な地域への活動、これにご賛同してご参加いただける方がご入会される、というのも一つ切り口ではないかなというふうな思っております。もう一つ思っているのが、地域で活動されているボランティアグループに中央大学ひつじくものメンバーを紹介させて頂き、彼らに経験の場を与えるというような活動もこれから出来たらいいな、と思っています。

2023-24 あずさ部第2回評議会 グループ討議 報告

(敬称略)(赤字は欠席)

第1グループ (金丸 篠原 長津 水越 小口 久保田佐 後藤明 藤原)

- ・部長輪番制について・・・富士山部のようなエリア制を取り入れたらどうか。4つのエリア→4年に1回まわってくる。
- ・部長を2～3年先まで決めておく。・立候補



第2グループ (高瀬 江原 御園生 野々垣 (健)、花輪 小原 原(俊)、米山)

- ・輪番制を残しつつも出来ないところは飛ばす。ただ、制約がないと人数の多いクラブばかりが担うようになる。
- ・あずさ夢街道—あずさ部がまとまった。
- ・部に、仲良くなれる仕掛けがほしい。



第3グループ (田中 山口直 大谷 野々垣悦 並木信 服部 原叔 仙洞田)

- ・部長選出の現在の公平性を保ちながら、工夫して別のシステムも加える。
 - ・区、部の組織をシンプルにして役員(部長等)の負担感をなくす。
- 現在の東日本区の部は個々の事情が違う。



第4グループ (ピーター・マウントフォード、 板村 小澤 佐藤 稲葉 望月勉 大澤)

- 輪番以外に方法はあるか、という事でディスカッションを行った。
- ・抽選とする、会員数の少ないクラブをまとめる、区の指名委員会のようなものを設けるといった意見もあったが、結論としては、輪番制を維持し、それが難しい時は柔軟に対応することにより、となった。
 - ・3部長と全会長で相談して決めることにより、のではないかも。そのことを部規則施行細則に盛り込む。
- また、役員(部長)の任期の規定に再任を妨げない旨を追記してはどうか。
- 部長の選出方法につきピーター次期部長が検討すると言っておられる。



第5グループ (小倉、古畑、興水、飯田、大久保、小池、青山)

基本、輪番制は残す。そのうえで事情を考慮。

助け合い・・・クラブ合同で対応(松本と長野など)

・部長の仕事量(負担)を減らす。 ・クラブ訪問→まとめ訪問などを考える。

・あずさ夢街道



第7グループ (神谷、大和田、山口了、久保田真、菅野、望月喜、食品)

・部長を2年制にしたらどうか→現役の人には厳しいという意見あり。

・部長訪問→合同例会に。

・輪番制は続ける→書記、会計に他クラブの応援。 ・部を4つのエリアに分けて選出。

・部大会、評議会1回



第6グループ (本川、柳澤、寺田、並木真、山本、後藤忍、森本)

・現と次期の役員引継ぎ会があってもよいと思う。

・会員数に多少があるので部を4グループに分けて部長を選出。

・部長訪問→合同例会に行くなど工夫が必要

・評議会の回数を検討→部大会、評議会1回でよいのでは。



特別寄稿 ワイズへの道しるべ

稲葉 恵子

あずさ部第2回評議会当日は好天気にも恵まれ、「高尾の森わくわくビレッジ」いう素晴らしい会場で開催されました。

森本 部長の開会点鐘で始まり、ワイズング並木さんの聖書朗読 お祈りと厳かに進み、我が東京八王子ワイズメンズクラブ 真会長の歓迎挨拶が爽やかに自然体で落ち着いた素晴らしいご挨拶に思わず立ち上がり、携帯で写真撮影をしていました。

評議会も初めてならば受付も初めての経験でした。ほとんどの方を存じ上げないので失礼のないように努めました。

私は入会当初に怪我をしてしまい会の方々共にも親しくお話も出来ないままでしたが、今回の評議会の中で大久保さん久保田さん(奥様)とお話が出来たこと嬉しかったことの一つです。

議案審議では皆さん真摯に向き合い討議されていて、益々素晴らしい会に参加していることを実感しました。また、あずさ部長選出について、グループに別れて話し合いが行われグループの中でリーダー 書記としてお二人の方が中心になって進めて下さり、ワイズメンズクラブの事も評議会の事も知らないまま参加している私に対して優しく心広く「入会当初は皆、誰でもそうだから・・・」と受け入れて下さいました。その中で、若きリーダー真会長のいる東京八王子ワイズメンズクラブが羨ましいと話されていたことが強く心に残りました。

続いての懇親会は皆さん笑顔で歓談されお食事も進み素晴らしい会も無事に終わりました。会が何事もなく無事に終了したのも皆様の事前準備が完璧だったからだと思います。皆様 本当にお疲れさまでした。これからはもう少し力になれるよう頑張ります。



クラブの募金活動

久保田貞視

八王子クラブの最初の募金活動は、1999年9月21日に台湾中部でマグニチュード7.6(震度7)の大地震があり、死傷者、負傷者とも多く、多くの建物も崩壊し、悲惨な状態であった。

当クラブは9月の第2例会を故橋本秀昌ワイズ宅で行い、救援活動の一環として街頭募金活動をやってみようとの声が出て当時の久保田会長はじめ全員賛同して、10月2日にJR八王子駅北口、京王線八王子駅前初めて街頭募金を実施した。その後、地雷廃絶のためのチャリティコンサートの会場に加え、その一週間前に地雷廃絶のためとして街頭募金を実施、2011年からは地雷廃絶と東日本大震災被災者支援として実施してきた。その間、新潟大地震、トルコ大地震、インド・エルサルバドル地震などの街頭募金を京王線北野駅前も含めて継続して実施した。この街頭募金でひつじくもの柳原(旧姓佐藤)絵里子さんとの出会いもあった。東京YMCA西東京センターのボランティアリーダーや中央大学ひつじくもの学生の協力参加もあり、ワイズの東日本区では「街頭募金は八王子クラブ」とも言われ評判となった。途中、京王八王子駅前は京王電鉄から禁止され、また、クラブのメンバーも減少したのでJR八王子駅北口に絞って実施してきた。

2020年からコロナ禍の為チャリティコンサートは4年間中止、街頭募金も同じく4年間中止してきたので今回は5年ぶりの街頭募金となる。3月2日は、当初、チャリティコンサートと同じく地雷廃絶とウクライナ避難者支援としたが、元日に能登半島地震が発生し、被害も甚大なことから、チャリティコンサート会場内での募金はそのままとし、街頭募金は「能登半島地震被災者支援」として実施することにした。中央大学ひつじくもの学生も多く参加していただき多くの募金が集まることを期待したい。東京YMCAはすでに現地に入り、ボランティアの指導に当たっており私たちは募金活動で側面援助をしていきたい。



能登半島地震被災者支援街頭募金計画書

東京八王子ワイズメンズクラブ

A. 街頭募金の目的・募金使途

●能登半島地震被災者支援活動への寄付

(東京YMCAによる地震被災者支援活動への寄付)

B. 実施計画

▼日 程 2024年3月2日(土)

■ 集合時刻 午後1時

▼開始時刻 午後1時30分

▼終了時刻 午後3時30分頃

▼集合場所 JR八王子駅北口階段下正面

▼募金場所 同上

▼参加者 ワイズメン・メネット中大学
Y生、他賛同者

*参加者服装は自由。寒いので防寒に配慮

*立ち続けるので、楽な履物。

*声を出し続けるので、飴玉、飲み物等

*マスクの使用は自由。

▼役割分担 募金声出し、募金箱保持、
チラシ配布、幟旗保持等交代で。

C. 物品等準備

▼ 八王子警察署道路占有許可書

▼ 募金箱 YMCA紙製募金箱10個

▼ 募金チラシ ▼ 募金呼びかけ例文

▼ 被災地写真パネル

▼ 募金用 幟旗・ポール(旗竿)

▼ 金銭収納箱

*能登半島地震被災者の緊急支援募金にご協力をお願いします。

*八王子ワイズメンズクラブです。能登半島地震被災者支援募金を行っています。

*能登半島地震被災者にはまだ十分な支援が届いていません。継続的な支援が必要です。募金にご協力ください。

*能登半島地震被災者は過酷な避難生活を強いられています。支援募金にご協力ください。

*1月1日に地震に襲われた能登半島では、多くの人々が避難生活を強いられています。支援募金にご協力ください。

*厳寒のなか、避難生活を送る地震被災者の支援にご協力ください。

わくわくビレッジ便り

館長:菅野牧夫

先日のあずさ部桑都評議会ではわくわくビレッジをご利用いただきありがとうございました。無事に終わりホッとしています。わくわくビレッジも少しずつ寒さが緩んでまいりました。原っぱでは梅か桃の花も咲き始めました。もうすぐ本格的な春の訪れです。

わくわくビレッジではプログラムスタッフの減員に伴って、年度初めから求人をしておりました。学校団体にキャンプファイヤーのレクリエーション指導をしたりする、ちょっとレアな仕事のため、なかなか働きたい人が見つかりませんでした。12月に環境フォーラムという2泊3日清里清泉寮で行う研修に参加して、そこで知り合った外国籍の学生が職を探していることを知り、このチャンスを見逃したら減員のまま来年度をスタートさせなければならないと思い、思い切って採用を決めました。在留資格を学生から就労に変える必要があります。YMサービスとしては初めての外国人の採用ですので、行政書士の先生にお願いして、申請書類の作成に当たっています。うまく許可が下りて、晴れて働くことができることを祈っています。働き始めたら皆さんにもご紹介させていただきます。

1月末に2回に分けて利用者懇談会を開催しました。利用者懇談会は、わくわくビレッジの使い勝手を利用者からインタビューする会になります。こちらで出された意見や改善策をこれから東京都に報告をしていきます。今回参加していただいた学校様からはおおむねよい評価をいただきましたが、予約が電話のみになっており、電話がなかなかつながらないという意見が多くありました。これからの時代ネットやメールでの予約ができるようにしていかなければいけないという課題が見つかりました。今までアナログで行っていた予約をデジタルに変更していくので、いろいろ問題点がありますが3期獲得に向けて必要な変革なので一丸となって進めてまいります。



春の訪れ(高尾わくわくビレッジにて)

ひつじくも便り

【ボランティアの“情熱”と“理論”】

ひつじくも委員長兼共同代表 藤原直輝

今年は、大変な1月となりました。特に、能登半島地震では“津波”という単語に驚かれた方も多いと思います。私達が普段行っているボランティア活動の本格的な始まりは、阪神淡路大震災だと言われています。そして、2013年の東日本大震災では日本だけでなく、世界中から支援者が訪れました。大きな災害は悲劇であると同時に、被災者の方々だけでなく、災害の苦しさや怖さを知っている私達全員が一丸となって立ち向かわなければならない障壁なのです。

私達ひつじくもは現在、お子様からご高齢の方まで幅広い層のボランティアを行っており、環境問題への取り組みの一環としてゴミ拾い活動にも力を入れています。そして長期の休みでは海外への派遣を行い、国内に留まらない交流の幅を広げています。そんな様々な活動を通じて学んだ大切な事が2つあります。

それは自主性と協力です。実際にボランティアを行う現場において、相手が求めている以上の事が出来ないうまく考え工夫し、次に活かしていく、そうした所に発展性があると感じました。そこで本年度より、ひつじくもでは学生が自ら課題を見つけ、解決策を考え実行していく、企画係を設立致しました。しかし、一人では企画を実現する事はできません。企画を現実化する為には、多くの人を巻き込んで協力して貰う必要があります。そして協力して頂くためには、より多くの視点から“本当に求められている”ボランティアを考え、“情熱”と“理論”を併せながら伝えていかなくてはならないのです。

今回の学生YMCA冬のオリエンテーションでは、同じくボランティア活動に力を入れている仲間と出会うことが出来ました。昨今、学生同士の交流が少なくなっている傾向があり、YMCAの強みである交流の幅の広さを活かしていきたくない現状があります。そこで、今回のような新しい出会いをきっかけに、より多くの仲間と協力しながらボランティア活動に邁進して行けるきっかけになればいいと思います。



梅一

輪

東京YMCA 近況報告

担当主事 菅野牧夫

1. 「山中湖センター100周年記念募金」のクラウドファンディングは、期限の12月30日までに約360人から目標額に迫る合計9,255,000円のご寄付があった。多くの方にご協力をいただいた。なお、口座振り込みによる募金は3月末まで受け付けている。
2. 12月末まで受け付けていた「ハワイ・マウイ島山火事緊急支援募金」には、合計636,874円のご支援をいただいた。被災した子どもたちのキャンプや、被災者の生活を再建する活動のために用いられた。
3. 1月1日に起きた能登半島地震の被災地緊急支援募金を全国YMCAで一斉に開始した。東京YMCAではHPやメールマガジンで募金協力を呼びかけている他、下記の通り街頭募金を実施した。
1月9日(火)16:30~17:30 高田馬場駅周辺 参加者21名 募金額 ¥55,731
1月14日(日)15:30~17:30 高田馬場駅周辺 参加者55名 募金額 ¥136,703
1月17日(水)17:00~18:00 東京駅周辺 参加者30名 募金額 ¥103,672
1月18日(木)10:30~11:00 11:30~13:00 16:30~17:30 東陽町駅周辺 参加者延べ76名 募金額 ¥287,899
1月24日(水)16:00~17:30 高田馬場駅周辺 参加者34名 募金額 ¥142,022
4. 能登半島地震の復興支援活動を検討するため、1月7日から日本YMCA同盟と東京YMCAの職員が輪島市を中心に被災地の視察を行った。また内閣府から要請を受けて、金沢市のいしかわ総合スポーツセンターに開設された1.5次避難所のアドバイザーをYMCAがつとめ、引き続き全国YMCAのスタッフが交替で同避難所の運営サポートを行っている。さらにピースボート災害支援センターを通して輪島市からの要請を受けて、1月25日より輪島市町野町にある避難所(町野小学校・東陽中学校)の運営サポートを開始した。2月末頃まで、常駐スタッフ1名の他、1週間ずつ交替でスタッフ2名ずつを派遣し、輪島市の職員や関連団体とともに避難所での支援活動に従事する。

今月の聖句に寄せて (2024年2月)

国連は1959年11月20日の第14回総会において「子どもの権利宣言」を採択して、子どもの権利を高らかに謳い、その後の国際社会に大きなインパクトを与えました。しかし、開発途上国の子どもを取り巻く状況など、さらに子どもの生活条件の改善のための国際協力の必要性、重要性を認めることの中で、国連人権委員会は、1989年3月8日、「子どもの権利に関する条約」を採択しました。

かつて、子どもは「小さな未熟な大人」として一方的な保護、指導の対象とされ、さらには、一人格主体であるよりは、保護者の所有物であるかのような扱いを受けている現実に触れることが多くありました。今、私たちの社会は、「子どもの権利宣言」、「子どもの権利に関する条約」、国内の児童憲章、「児童福祉法」その他で、子どもが一人格主体として、人種、年齢、性別、国籍等すべての相違を超えて、等しい権利主体であることを認識しています。

しかし、今、私たちは、この認識が生きて働いていない現実を不断に突きつけられています。少子化が急速に進む中で、「子どもは社会の未来だ」として、社会の未来を案ずる主張、施策が声高に語られる中で、むしろ、子どもをめぐる悲惨な事件、事故は、増加しているように感じられます。

「この子どものように、自分を低くする者が、天の国で一番偉いのだ。また、私の名のためにこのような子どもの一人を受け入れる者は私を受け入れるのである」とよびかけるイエス・キリストの言葉に、頭を垂れて今こそ聞くべきではないかと思うのです。

並木 信一



【1月第一例会報告】 代:編集部

日時: 1月27日(土)18:00~20:00
場所:八王子北野事務所2階大会議室
出席者:(敬称略)長谷川、菅野、稲葉、久保田、
並木(真)、並木(信)・雍子、山本、大久保
ひつじくも・折原美結2年、
ゲスト・鶴清忠(卓話者)、酢屋義元(会友)以上12名
卓話:「東京多摩いのちの電話創設への思い〜創設から今日への歩み」 鶴 清忠氏(東京多摩いのちの電話財務委員長 元東京YMCA 主事)



70年目にイギリス・ロンドンで始まる。1985年9月1日の40年前に国際キリスト教大学教授星野明生さんが初めて「いのちの電話」を受けた。東京多摩いのちの電話結集宣言を採択。相談員と関係者が唱え続けている。
『私たち東京多摩地区に生活の根拠を持ち、ささやかな力と大きな意欲に燃えるボランティア一同は今日を定めて、次のことを互いに心に約束します。私たちは変動する社会にあって孤独と危機に直面している人々に、電話を通じてその訴えには耳を傾け、その嘆きには共感し、その辛さには身を揺るがすことによって精一杯の努力をします。私たちは自らがより良く生きるための仕事を果たしつつ、人がより良く生きることに役立つ時間と言葉と思いを捧げます。私たちは一人前の電話相談員または支援者となるために課せられた研修・訓練をやりこぎり、心身を常に健康に保ちます。そしてより多くの人々に希望と勇気と喜びが続くように。私たちの力と意欲を結集します。』
命の電話は私らというよりはYMCAが生み出したと言っても過言ではないという。

東京多摩いのちの電話 連絡先
042-327-4343
年中無休 毎日午前10時~午後9時

*ハッピーバースデー・佐藤信也メン、佐藤正子メネ、
並木信一メン
*マイルは、12,050円(累計 89,680円)

1月の誕生日 (並木信一さん)



誕生日は、子(真会長)から親(信一さん)へ
佐藤信也メンと正子メネットが同じ1月誕生日でした。

チャリティーコンサートの
JCBL 監事挨拶

山口誠史(やまぐちまさし) 氏

1956年埼玉県生まれ
(特活)地雷廃絶日本キャンペーン(JCBL)監事
(特活)シェア=国際保健協力市民の会 理事
大学卒業後、1985年に(特活)日本国際ボランティアセンター(JVC)に参加、東アフリカのソマリア、カンボジアなどの現場を経て、東京本部総務を担当。
2001年からは、保健医療専門のNGOである(特活)シェア=国際保健協力市民の会の事務局長として組織運営及びプロジェクト全体を統括。
また、2010年3月からは、国際協力NGOのネットワーク組織である(特活)国際協力NGOセンター(JANIC)の事務局長に就任。2007年に地雷廃絶日本キャンペーン(JCBL)の監事に就任。現在に至る。

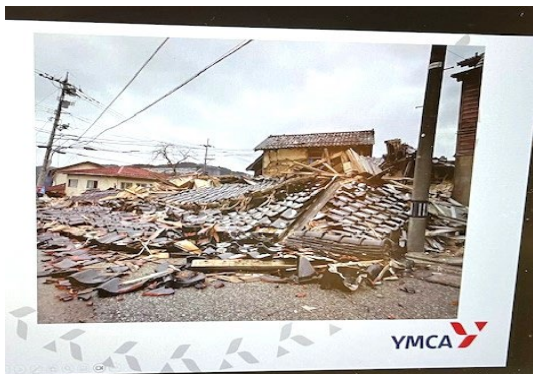
今月お誕生の方
久保田佐和子さん 21日

あすこ部桑都評議会懇親会

八王子クラブからのチャリティー コンサート アピール



頑張る 中里敦さん 能登半島震災支援



卓話者、鳩山徹郎さんのプロフィール

「中学生時代に親の勧めで東京 YMCA 山手センターのスキーキャンプに参加。以来、継続的にスキーキャンプ、サマーキャンプにメンバーとして参加。大学生になり自然な流れの中で同センターにてボランティアリーダーとしてシーズンキャンプや幼児、小学生、中高生対象の定例活動に参加。

2005年に東京 YMCA に入職。南センター、高尾の森わくわくビレッジ、西東京センター勤務を経て、2015年秋に北米フロストホレーYMCA に出向し、本場のキャンプ文化を学ぶ。2022年秋に帰任後、現在は古巣山手センターに籍を置き、野外教育事業 キャンプ場全般を担当。

ワイズメンズクラブは、世田谷、目黒、武蔵野多摩、八王子の担当主事、現在はサンライズを担当」

先月の例会ポイント (1月)

在籍	12名	切手	45g	計 45g
メン	8名	現金		0円
メイキャップ	2名	累計		0円
出席率	83%	スマイル	12,	050円
メネット	1名	累計	89,	680円
ゲスト	2名	オークション		0円
ビジター	0名	累計		0円
ひつじぐも	1名			

長野・森本部長の独り言

今度の例会は 権バルといって権堂町の 30 店舗が参加する 障碍者に優しいソシ展開があるので、教団の飲み会にしよう提案しています。

4500 円のチケットのうち 500 円は能登半島地震への寄付になるそうで、4 枚つづりのチケットは分けて飲み歩けるそうです。しかも一枚はタクシー 1000 円分として使えるとか。私は普段マイカー参加ですが、その日は飲もうかな。と思っております。

権堂町のほかに長野駅周辺でもバルが開かれ、最近ではそちらの方が賑わっているようです。数年前は、長野坊さんの会が「坊主バル」を開いて、大船渡のサンマを食べさせて話題になりました。福島ワイズも当然バルの店員で、我々が行っても売り切れになっているほどでしたが、今年はサンマが不漁だからどうするでしょうか。

亡くなった廣瀬健さんが部長の時は公式訪問でこの会に参加してくださり、大騒ぎしたのが思い出です。

東京八王子ウィズメンズクラブ

対人地雷・クラスター爆弾廃絶のために
ウクライナ避難者支援のために

第22回

チャリティー コンサート

奈良原 繭里 ソプラノコンサート
弦の調べと共に

2024年 **3月9日** 土 13:30開場
14:00開演 16:00終演

八王子市北野市民センター 8階ホール(京王線北野駅前2分)

曲目

・カッチーニのアヴェ・マリア ・エーデルワイス ・オペラ「ルサルカ」より「月に寄せる歌」
・懐かしい日本の歌～童謡 ・唱歌メドレー 他 ※当日は変更する場合がございます

出演者

奈良原 繭里 / ソプラノ 笹川 哲史 / ヴァイオリン 中山 博之 / ピアノ



奈良原 繭里
ならはら まゆり
(ソプラノ)

八王子市出身、音楽学園短期大学卒業、洗足学園音楽大学卒業、東京音楽大学大学院修了。オペラでは「夜園舞踏会」アメリオ、「地獄」ヴァオレタ、「ドン・ジョヴァンニ」ドン・アンナ、「トゥーランドット」リウ、「徳義女アンジェリカ」アンジェリカ役等 オペレッタでは「チャールズ・シュの女王」シルヴァ役等で出演。高尾山楽王座で行われた初の音楽コンサートに出演。2018年八王子市いちょうホール、2022年若手県大船渡市リアスホールでリサイタルを開催し好評を得る。ヴァン・クロイツァー・ペリシ、ラベ・ハイデルマンに師事。録音家劇団役員。



笹川 哲史
ささがわ さとし(ヴァイオリン)

東京都出身、幼少よりヴァイオリンとピアノを学ぶ。東京音楽大学在学中より渡辺いっけいにてオリヴィエ・シャルリエ氏に師事。東京音楽大学卒業後も、アマテウス四重奏団の故ノース・ブレイン氏の知識を得て薫陶を受けるなど、ヨーロッパ各地で更に研鑽を積む。帰国後は、コンチェルト等のソロ、室内楽、オーケストラ、レコーディングと活動は多岐にわたる。オーケストラのコンサートマスター、首席奏者としても数多くの演奏会に出演している。室内楽等のアンサンブルパートナーとしての依頼も厚く著名な演奏家とも多数共演。これまでにヴァイオリンを、グールド・ボッセ、藤岡真弓、オリヴィエ・シャルリエ、クリスティアーン・エヴァンガー、ルドルフ・コールマン、ジュリアン・カルクニエの各氏に、室内楽をカルクニエ四重奏団、ワルター・レヴィン等の各氏に師事。



中山 博之
なかやま ひろゆき(ピアノ)

東京芸術大学作曲科卒業、アレンジャーとして、TVゲームやアニメ作品の制作等、幅広く活動。2021年東京オリンピック2020の開会式において、オーケストラ編曲したファイナルファンタジー「勝利のファンファーレ」が使用された。ピアニストとしても2010年にワルシャワ・バリエにてショパン作品を演奏。ゲーム音楽のピアノリサイタルでは、世界各国で演奏し場を拓ける。現在、桐朋学園芸術短期大学非常勤講師、NHK、読売カルチャー講師。

入場整理券 **1,000円** お問い合わせ先：
花輪宗命(090-2213-0257)

主催：東京八王子ウィズメンズクラブ
後援：八王子市 / 地雷廃絶日本キャンペーン(JCBL)